

モーシヨシリブ(株)
代表取締役CEO

溝口 貴弘氏



発に組み組んでいた。そしてこのICを本格的に提供しようという志により、16年にモーシヨシリブが誕生

術を学術的に深めて体系化した。14年にはハプティクス研究センターを設立した。

未来などをお聞きした。——設立の背景から。

——リアルハプティクスとは。

角度である「位置」をもとに、アクチュエーターにかかる「力」を独自アルゴリズムで高速に推定する。このため、力センサーは不要。位置の同期力の再現を同時実行し、力触覚を双方方向に伝送する。モノに合わせた動作をデータとして抽出、記録する。ドが遠隔手術を行うなどの遠隔操作、職人技など属人的な作業スキルの可視化・分析およびこのデータ活用の自動化、仮想空間でのVR(感触再現)も実現する。実際に高齢ベテラン技術者がリアルハプティクス活用により再び熟練の技を遠隔操作で実行でき、その匠の技

い、リアルハプティクスは成功したデータを記録し、それを再現する点が大きく異なる。従来は不可能だった触覚情報に関する、人間が持つ曖昧さを曖昧なままデータ取得できる。

——リアルハプティクスは成功したデータを記録し、それを再現する点が大きく異なる。従来は不可能だった触覚情報に関する、人間が持つ曖昧さを曖昧なままデータ取得できる。

要になる。——将来に描く姿は。溝口 現状では工場内でモーター駆動するロボットなどでの使用が多い。しかし将来的には用途に合わせてバリエーションを作り、見えない部分にAbcCoreが使われているという状態を創出していきたい。例えば、洗濯機、喫茶店の給仕ロボットなど人間の生活に近いところで自然に浸透していく未来をイメージしている。また、要素技術の産業界への応用展開において知見と実績があるタタコンサルタンシーサービシズとの提携では、多岐にわたる事業分野とリアルハプティクスの応用性の高さを合わせ、幅広い用途でグローバル展開する未来も見据えていく。

リアルハプティクスで挑む

独自ICで力触覚を記録・再現

動きそのものを力センサーのように記録・再現し、力感触を持ったものを作り出せる。事実、目の前でロボットハンドがポテトチップス1枚を割らずに器用に持ち運ぶ。そんな固定概念を覆す「リアルハプティクス」でイノベーションに挑む慶應義塾大学発ベンチャー企業「モーシヨシリブ(株)(川崎市幸区)」。2016年4月の創業時から同社を率いる代表取締役CEOの溝口貴弘氏に、同社設立の背景、同技術の特徴開発品、見据える

溝口 当社設立のルーツは、慶應義塾大学の大西公平特任教授にある。大西先生は、自身の精密制御研究の知見を活かし、モーターを制御し、外界とのインタラクション(感触)をデータ化するという「力触覚伝送」に02年に成功された。その後、モーシヨシリブコントロールやハプティクス技

術を学術的に深めて体系化した。14年にはハプティクス研究センターを設立した。——設立の背景から。

——リアルハプティクスとは。

角度である「位置」をもとに、アクチュエーターにかかる「力」を独自アルゴリズムで高速に推定する。このため、力センサーは不要。位置の同期力の再現を同時実行し、力触覚を双方方向に伝送する。モノに合わせた動作をデータとして抽出、記録する。ドが遠隔手術を行うなどの遠隔操作、職人技など属人的な作業スキルの可視化・分析およびこのデータ活用の自動化、仮想空間でのVR(感触再現)も実現する。実際に高齢ベテラン技術者がリアルハプティクス活用により再び熟練の技を遠隔操作で実行でき、その匠の技

い、リアルハプティクスは成功したデータを記録し、それを再現する点が大きく異なる。従来は不可能だった触覚情報に関する、人間が持つ曖昧さを曖昧なままデータ取得できる。

——リアルハプティクスは成功したデータを記録し、それを再現する点が大きく異なる。従来は不可能だった触覚情報に関する、人間が持つ曖昧さを曖昧なままデータ取得できる。

要になる。——将来に描く姿は。溝口 現状では工場内でモーター駆動するロボットなどでの使用が多い。しかし将来的には用途に合わせてバリエーションを作り、見えない部分にAbcCoreが使われているという状態を創出していきたい。例えば、洗濯機、喫茶店の給仕ロボットなど人間の生活に近いところで自然に浸透していく未来をイメージしている。また、要素技術の産業界への応用展開において知見と実績があるタタコンサルタンシーサービシズとの提携では、多岐にわたる事業分野とリアルハプティクスの応用性の高さを合わせ、幅広い用途でグローバル展開する未来も見据えていく。

